

平成 26 年 7 月 5 日作成

## 第 12 期 男女共同参画学協会連絡会 第 3 回運営委員会 議事録 (案)

日時：平成 26 年 6 月 24 日 (火) 15:00～17:00

場所：日本大学理工学部駿河台キャンパス 1 号館 121 会議室

出席者：正式加盟学協会／(42 学協会、71 名)

篠原雅世(化学工学会)、清水美穂(日本宇宙生物科学会)、森義仁(日本化学会)、塩満典子(日本原子力学会)、尾崎美和子(日本女性科学者の会)、田中寛、西村いくこ、野口航、得平茂樹(日本植物生理学会)、平田典子、宮岡礼子、杉山由恵、酒井高司、張良、高良淑子、高市典子、篠田佐和子(日本数学会)、渡辺恵子(日本生化学会)、佐々木晶子、坂田剛(日本生態学会)、佐甲靖志(日本生物物理学会)、光永-中坪敬子、窪川かおる、澤田美智子、佐藤恵(日本動物学会)、吉田薫(日本発生生物学会)、窪川かおる、阿見彌典子(日本比較内分泌学会)、小形正男、John Flanagan、伊藤公平(日本物理学会)、山口恵子、井関祥子、小野弥子(日本分子生物学会)、竹中千里(日本森林学会)、木戸ゆかり、村田功(地球電磁気・地球惑星圏学会)、小川温子(日本糖質学会)、早野由里子、川浦香奈子(日本育種学会)、奥部真樹(日本結晶学会)、小口千明(日本地球惑星科学連合)、大鐘潤(日本繁殖生物学会)、富田-横谷香織(生態工学会)、堀頭子(錯体化学会)、榊原恵子(日本進化学会)、篠原美紀(日本遺伝学会)、植田富貴子(日本獣医学会)、大橋徳子(日本質量分析学会)、須之部友基、片山英里(日本魚類学会)、須藤まどか(日本畜産学会)、窪川かおる(日本水産学会)、恒次祐子(日本木材学会)、岩熊まき、石田佳子、笹尾圭哉子(日本技術士会)、永田典子、戸部博、川合真紀、植村知博、小竹敬久(日本植物学会)、伊東明子(園芸学会)、裏出令子(日本農芸化学会)、江崎太一(日本解剖学会)、笠井久会(日本魚病学会)、馬場広子(日本神経化学会)、千安由紀子、大矢純子、井端一雅(計測自動制御学会)、水村真由美(日本体力医学会)、小林富美恵(日本熱帯医学会)、大坪久子(日本遺伝学会)

オブザーバー加盟学協会／(9 学協会、13 名)

山口恵美(地盤工学会)、齋藤一弥(日本液晶学会)、山口理栄(日本女性技術者フォーラム)、岡村美好(土木学会)、花崎泉(電気学会)、藤原すみれ(日本植物細胞分子生物学会)、増田しのぶ(日本組織細胞化学会)、藤ノ木政勝、原太一(日本細胞生物学会)、苅米義弘、為近恵美、高井まどか、小川賀代(応用物理学会)

委任状：正式加盟学協会／(7 学協会)

高分子学会、日本生理学会、日本蛋白質科学会、日本バイオイメージング学会、日本建築学会、種生物学会、「野生生物と社会」学会

新規正式加盟学協会 (後ほど承認) 今井桂子、高田章(日本応用数理学会)

開会に先立ち、平田委員長から、第12期事務局(数学会)の本日のメンバーの紹介があった。宮岡氏(東北大学)、杉山氏(九州大学)、酒井氏(首都大学東京)、および数学会事務局。

# 議事

## I 確認事項

1. 第12期 第2回 運営委員会議事録が承認された。(資料配布)

## II 報告事項

1. 要望書の賛同学協会数と提出先について

要望書の中表紙（賛同学協会一覧）が映写され、平田委員長より要望書の賛同学協会数について説明があった。今までの提言・要望書の中では以下のように最も多い賛同学協会数となった。要望書は連絡会のHPにuploadしてある。

- ・正式加盟 52 学協会のうち、51 学協会が賛同
- ・オブザーバー 31 学協会のうち、23 学協会が賛同

要望書は主に官公庁等に提出（提出先は以下）。提出の際には、概ねお会いして説明させていただいた。提出先とのアポイントメント確保に関しては塩満氏（日本原子力学会）にご尽力いただいた。アポイントメントが取れなかったところには郵送した。

### 提出先

<文部科学省>

科学技術・学術政策 局長、次長、  
人材政策課 人材政策推進室長、基礎人材推進係係長、  
文部科学大臣政務官、文部科学審議官、  
研究振興局 振興企画課 学術企画室長、  
大臣官房審議官 生涯学習政策局担当、生涯学習政策局 男女共同参画学習課長、  
文部科学省科学技術政策研究所 総括上席研究官、上席研究官、科学技術白書担当者

<内閣府>

総合科学技術会議 議員、  
内閣府 男女共同参画局長、男女共同参画局 総務課 政策企画調査官

<上記以外の政府関係者>

総務副大臣、総務委員長、厚生担当理事、参議院災害対策委員長、元内閣府特命担当、元内閣府特命担当大臣（少子化・男女共同参画）、政府厚生労働理事

<マスメディア>

読売新聞東京本社 論説委員（読売新聞東京本社）、科学ジャーナリスト

<郵送済>

内閣総理大臣、  
内閣府 特命担当大臣（消費者及び食品安全、少子化対策、男女共同参画）、  
文部科学大臣・副大臣、  
内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策科学技術政策、宇宙政策）、  
厚生労働大臣・副大臣、経済産業大臣・副大臣、環境大臣・副大臣、  
農林水産大臣・副大臣、  
日本学術会議会長・副会長、日本学術振興会、科学技術振興機構

続いて「平成26年版 科学技術白書」が映写され、平田委員長よりこの白書には今回の要望書の内容と第3回アンケート解析結果のグラフが反映され、連絡会の名称も記載されていることが説明された。

(参照：[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpaa201401/1340515.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa201401/1340515.htm))

○塩満氏（日本原子力学会）より：

せっかくの要望書なので政策に結びつけなければいけない。平成27年度予算に反映させるようにしたい。ベストプラクティス、ロールモデル可視化等をはかるためのリスト作り等について、引き続き努力いただきたい。

## 2. ホームページの移転について

平田委員長より、連絡会のホームページが応用物理学会からお借りしていたサーブスペースからラボ・アクセラレーターのサーブスペースへ移転したことについて説明があり、グーグル検索画面も変化したことが伝えられた（グーグル検索画面映写）。

新URL（トップページ）

<http://www.djrenrakukai.org/index.html>

## 3. 男女共同参画アンケート結果データベース利用申請について（資料回覧）

第12期第2回運営委員会以降に申請があり、メール審議にて承認済みのデータベース利用申請書が回覧された(1件)。

- ・日本遺伝学会

## 4. 協賛・後援依頼および報告（資料回覧）

第12期事務局で承認済みの以下の協力依頼・協賛依頼・後援依頼・共催依頼および後援名義実施報告について、平田委員長または主催の学協会から説明が行われた。

資料一式は回覧された。※詳細は連絡会HP「共催・協賛・後援等催し」を参照のこと。

### ・協力依頼（1件）

(1) 第9回女子中高生のための関西科学塾

主催：公立大学法人大阪府立大学

### ・後援依頼（5件）

(1) 平成26年度高専女子フォーラム in 東海北陸

主催：独立行政法人 国立高等専門学校機構（富山高等専門学校）

(2) 平成26年度高専女子フォーラム in 中国

主催：独立行政法人 国立高等専門学校機構（呉工業高等専門学校）

(3) 第49回地盤工学研究発表会 特別セッション（一般公開、参加無料）

地盤工学会におけるダイバーシティの実現ー地域に根ざしたダイバーシティ

主催：地盤工学会 会員・支部部 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

⇒山口氏（地盤工学会）よりイベントのご説明：

「若手やシニアにも目を向けていこう」というテーマに基づいた若手ワールドカフェや、シニア層の活用に関するお話。

(4) 女子中高生夏の学校2014～科学・技術・人との出会い～

主催：独立行政法人 国立女性教育会館 8月7～9日

⇒森氏（日本化学会）より：

実行委員会への参加・実験参加・ポスター参加のお礼のあと、実行委員長からの4点のお願いが伝えられた。(a)女子学生TA（特に数学・物理）のご紹介依頼、(b)交流に協力してくれる留学生（女性）のご紹介依頼、(c)交通費等についての募金のお願い、(d)賞品として用いるグッズ提供のお願い（例えば学協会の名前が入った鉛筆、元素記号表のクリアシート等）。

(5)平成26年度 高専女子フォーラム in北海道

主催：独立行政法人 国立高等専門学校機構（釧路工業高等専門学校）

・協賛名義実施報告（1件）

(1)第6回男女共同参画ランチョンミーティング

「金属材料分野での多様なキャリアパス」

主催：日本金属学会・日本鉄鋼協会

5. 第12回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 準備状況

平田委員長より、以下について説明があった（後に審議事項でも取り上げる）。

開催日：2014年10月4日（土）

場所：東京大学大学院数理科学研究科（駒場キャンパス）

・シンポジウム参加申込みについて

「シンポジウム参加登録・申込フォーム」が投影され、出来るだけ学会単位でお申し込みいただきたいこと、参加登録費をいただいてシンポジウム開催費用に当てるため、登録費等の振込みのご協力をお願いしたい旨が、伝えられた。

・ポスターセッション申込みについて

申し込みを募っている。連絡会加盟学協会ではなくても、外部の団体様でも参加可能である。アンケートデータベースの利用申請をなされた団体様にそのデータをどのように活用したか等をポスターにさせていただくのも良い。積極的にお申し込みいただきたい。

・資料集（予稿集）の原稿依頼について

「資料集用原稿テンプレート」が投影された。リエゾンで詳細を流すが、原稿の締め切りは8月末頃の予定である。

・懇親会について

場所は東大数理の隣のレストランを予定。

6. 応用物理学会オブザーバー会員への変更について

（メール審議にて承認済み）

為近氏（応用物理学会、人材育成委員会委員長）より、オブザーバー加盟への変更に至る経緯について以下の説明があった。

応用物理学会は、連絡会の発足にあたった学会であるが、なぜオブザーバー加盟へ移行しようということになったか。1つの理由は、連絡会が大きな規模になってしまったこと、そのため応用物理学会の意思と合わない場合もあったということである。会計に関する問題も議論となった。余剰金が発生すると課税されるのではないかということで、応用物理学会は公益社団法人であるために理事会の中で問題となった。また当初、採決の際は全会一致（正式加盟学協会）の場合に決定とされていたが、過半数の賛成があれば可決されて連絡会全体の決定となる、とある時点で変化した。その場合、応用物理学会が賛成していないことでも実施しなければならず、応用物理学会内でねじれが生じ、連絡会の運営に関わることが難しくなった。それでも、応用物理学会内では男女共同参画の活動は進めていきたいと思っており、また他の学協会と連携を図りたいという気持ちに変わりはないので、柔軟い形で連携ができればよいと

思っている。将来的には正式加盟に戻していただく可能性もあるが、現在は、オブザーバーに変更させていただきたい。応用物理学会の男女共同参画委員会は他の委員会と合併して人材育成委員会となっているが、男女共同参画活動がトーンダウンしたわけではないので、今後もよろしく願います。

#### 7. 加盟学協会の活動報告

小川氏（日本糖質学会）から以下の報告があった。日本糖質学会において今年発足した男女共同参画委員会は、年会の中日に、ランチョンセミナー（男女共同参画特別懇談会）を開催することになった。ランチョンセミナーは初めてのことであり記念すべきことであるので、ここで報告させていただいた。学会保育室も設置することも計画中である。また「男女共同参画委員会」は「男女共同参画推進委員会」と名称変更予定である。

#### 8. WG活動報告

○「女子中高生理系選択支援」WGの森氏（日本化学会）から以下の報告があった。

女子中高生夏の学校の実行委員会において企画書を作り、JST（科学技術振興機構）の女子中高生の理系進路選択支援事業に申請をした。女子中高生夏の学校には、女子中高生以外にも、中学高校の先生や保護者の方々に参加いただいている。今年の第1回目WG委員会は春先に行い、JSTの去年の評価会の意見等をもとに、4～5月にJSTへの申請書を作成。採択通知は6月頃であった。NVEC（国立女性教育会館）が主催者である。これから具体的な案を考えていく。第2回目実行委員会は7月11日に行われることになっている。実行委員会メンバーは、数学会、地球惑星、物理学会、分子生物など。議事録は連絡会幹事学会に届ける。実行委員会の開催場所はお茶の水女子大学。

（参考：<http://www.nvec.jp/jp/news/2014/page01.html>）

○「提言・要望書」WGからは、最初の報告のとおり要望書を作成して提出したことが述べられた。

#### 9. 分担金の納入状況について

平田委員長より、このたび全ての学協会から100%のご入金をいただいたことへのお礼が述べられた。総額685,000円となる。

### III 審議事項

#### 1. 第13期委員長について

平田委員長より以下のような説明があった。

第13期幹事学会は、日本植物生理学会・日本植物学会の2つの学協会が協力してお務めくださる。第13期委員長の候補者は、西村いくこ氏（日本植物生理学会、京都大学）であることを前回の運営委員会でお話したが、ここで、ご審議・ご承認いただいたあと、西村氏にご挨拶をいただくことにしたい。

⇒拍手をもって承認された。

○第13期委員長の西村氏（日本植物生理学会 会長）より以下のようなご挨拶があった。

連絡会は2001年設立とお聞きした。設立から14年ほど経っており、外側から見て当初のミッションはほぼ達成できているような状況に思われる。各大学においても男女共同参画室ができ、各学協会でも男女共同参画のランチョンセミナーを行ったりして、男女共同参画という言葉が浸透してきている。今朝のニュースでも、安倍内閣でも公務員の女性比率を上げたいという基本方針を打ち出していた。このような追い風に乗っているのは、皆さんの今までの尽力の賜物だと思う。

また連絡会のあり方やミッションについては、考える時期に来ているように感じた。皆さんにご協力をお願いしたい。

13期は植物生理学会だけでなく、植物学会とも協力して行うので、植物学会会長の戸部先生をご紹介します。(映写が植物生理学会のホームページ画面から植物学会のホームページ画面に切り替えられた)

- 第13期副委員長の戸部 博氏（日本植物学会 会長、京都大学）より次のご挨拶があった。先ほど規約を拝見したら、副委員長は委員長が指名し、委員長の補佐をするとかかれていた。規約に従い委員長を補佐するように務めたい。

## 2. 新規加盟：日本応用数理学会（資料配布）

- 日本応用数理学会 会長の高田氏（旭硝子株式会社）より、学会の説明とご挨拶があった。

学会の会長を務めるようになり、産業界や社会との繋がりを大事にしていかなければいけないと思って、活動するようになった。産業界のほうは自分が元々仕事をしているところであるが、社会を考えた場合に、男女共同参画は大きな問題だと思った。年間の4分の1ほどは海外に行っているが、自分の分野でも海外では女性は3分の1以上いて、学校でも会社でも活躍しているようだった。そういう意味で日本は自分の目から見ても遅れているように感じた。

当学会は名前からわかるとおり、応用数理という特に数学の応用について研究している学会で、会員には大学の先生方や企業の研究者が多い。会員数は現在1,600名。女性の割合は5%と意外に少ないことがわかり、改めて問題意識を持った。これまでに、学会内で男女共同参画についてはっきりとした活動をしてきたわけではないので、連絡会に入会させていただき、皆さんからアドバイスをいただきながら協力して、少しずつ社会に対して貢献していけるような形で活動していきたいと思う。

また、今までは女性の会長・副会長はいなかったが、次の副会長は女性（今井氏）になってもらう予定である（今週末の理事会で決定予定）。このようにして学会内の改革も徐々に進めるので、是非ご承認をお願いしたい。

⇒拍手をもって承認された。

## 3. 電子情報通信学会オブザーバー会員への変更について（資料配布）

電子情報通信学会はご欠席のため、第12期事務局へ送られて来たメール（代読ご希望）が映写され、平田委員長がそれを代読した（オブザーバー加入申込書は配布）。

他の電気系、情報系学会がオブザーバーとして男女共同参画の活動を進めていることから、同じ分野の本学会も同様にオブザーバーとして進めるのが妥当であり、同じ分野同士で協調しやすくなるとの観点からオブザーバ加盟としたい、とのことが説明されていた。

- 平田委員長より提案：電子情報通信学会のかたと一度お話をさせていただきたいので、いったん慰留という形でご承認いただけないか。

⇒電子情報通信学会を慰留するというので、拍手をもって承認された。

4. アンケート解析結果の英文抄訳の校閲料、英訳グラフ作成追加作業について  
平田委員長より、以下のような説明と提案があった。

アンケート解析結果の英文抄訳については、すでに予算をご承認いただいているが、英語版を作成するにあたり、グラフの中の日本語を英語に翻訳するためには、Excelの生データよりグラフを一から作成し直す必要が生じた。複数の見積りを取り安い費用で対応してくれる業者が見つかった（見積費用180,584円）。また業者が翻訳した英語については、男女共同参画の用語や研究者の視点に基づき修正してから、Webにuploadしたいと思うため、翻訳の校閲料3万円が不可欠である。この2つの費用を入れても当初予算の範囲内であり、赤字にはならないので、ご承認いただけないだろうか。  
⇒拍手をもって承認された。

5. 規約の文言修正について **（資料配布）**

改訂案（新旧を左右に配置し改訂箇所を下線で示した資料）が配布され、平田委員長から、以下のような説明があった。前回の運営委員会で規約について議論した。いただいたご意見と日本数学会の顧問弁護士に相談した結果を反映した改訂案を作成した（弁護士相談費用は無料）。規約改正には審議承認が必要で、それも連絡会の構成員である各学協会にお持ち帰りいただきご議論いただくことが必要になると思う。

一番大きな変更点は4.1の文章であり、オブザーバー加盟と正式加盟の定義をしたことである。各学協会にこの改訂案をお持ち帰りいただくために、改訂案PDFファイルをリエゾンMLで送信する。各学協会理事会等にてご審議の上、その結果をお持ちいただき、次回の運営委員会にて諮るということをご承認いただきたい。

⇒拍手をもって承認された。

6. 10月4日第12回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムテーマ、ポスター  
第12回シンポジウムについてご審議いただきたいことがある。ポスター案とテーマ案（全体、分科会A、分科会B、パネル討論）が映写され、シンポジウム担当の杉山氏（日本数学会）から以下の説明があった。

第12回シンポジウムは2014年10月4日（土）に開催予定である。プログラム案の作成が進んでいるが、各テーマ（全体、分科会A、分科会B、パネル討論）についてご審議いただきたい。全体テーマは「女性研究者・技術者を育む土壌 ～連携・融合による支援をめざして～」とした。連携は男女連携、融合は世代間融合ということ念頭に、第12期でよく議論したものである。ご意見をいただきたい。

~~~~~

全体：女性研究者・技術者を育む土壌 ～連携・融合による支援をめざして～

分科会A：~~女性技術者が輝く未来に向けて~~ 【註】最終案は以下とのご指摘があった。

女性技術者の働き方 一意識・組織・制度一

分科会B：Dual Career カップルの同居支援案の模索

パネル討論：男女共同参画学協会連絡会の要望書の具現化に向けて

—~~～有期雇用の女性研究者・技術者に対して出来ること～~~

【註】サブタイトルは削除することになった。

~~~~~

- 塩満氏（日本原子力学会）よりご意見：  
全体テーマに関して具体的なイメージがわからないので、目的とするものは何か、ということ質問したい。連携と融合による支援というのは、具体的にどのようなものを指しているのか。
- 平田委員長より返答：  
様々な人々との連携を探り課題を見つけたい、という意図を含めた。官公庁からおよび互いの支援等も広く意味するような、大きなテーマを掲げたいと思った。
- 塩満氏（日本原子力学会）よりご意見：  
連絡会は設立から14年ほど経ってはいるが、まだ解決されていない問題もあると思うので、できればアンケート調査から具体的に明らかになった課題の重いものを中心に選択してほしいと思った。文科省や厚労省の方々もいらっしゃると思うので、できれば、そういう方々にメッセージが伝わるようなシンポジウムにしたいだけだとありがたい。
- 小林氏（日本熱帯医学会）よりご意見：  
自分は前回初めて運営委員会に参加し、今回は2回目である。自分がこのようなシンポジウムに参加しようと思うときに、どのようなことがきっかけになるかを考えると、掲げられているテーマが具体的であって、ここに参加すると何が得られるのか、というのがわかるとよいのかなと思った。日本熱帯学会は今度11月に初めて、男女共同参画推進委員会主催のシンポジウムを開こうとしている。何をテーマとして誰を対象とするのかということをはっきりさせたいとずっと考えていた。このような運営委員会に参加させていただく理由は、そのようなことを学びたいと思っているからである。
- 平田委員長より返答：  
育児休業等に関連する様々な問題を洗い出してみると、有期雇用の問題が根深く関わっていると思われた。また、3月に要望書についてご議論いただいたときに、女性研究者だけではなく、技術者のことも考えていただきたいというご意見があった。それらを生かすテーマということで考えてみた。
- 塩満氏（日本原子力学会）よりご意見：  
パネル討論のテーマが「有期雇用の女性研究者・技術者」となると少し狭いのではないかと、思った。要望書ではイノベーション拠点の話や、同居支援の話や、有期雇用ではない方々の育児休業の取得の難しさについても書かれていると思うので、気になった。また、分科会Aのテーマ「女性技術者が…」と書かれているが「女性研究者・技術者」ではないのか。
- 平田委員長より返答：  
連絡会のほとんどのメンバーが研究者であるが、女性技術者のことを本当によくご存じなのは女性技術者本人であろう。技術者という言葉は連絡会ではごく最近出てきた言葉であるので、今回は特にその方々に分科会をお願いして、まずは技術者についての問題を洗い出していただき、その後、共通の課題について連携していくのがよいと思った。分科会でご議論いただき、女性ということで繋がる問題を整理し、連携・融合による支援に発展させていけたらと思ひ、このようなテーマの案にした。
- 岩熊氏（日本技術士会）：(分科会A担当)  
映写されている分科会Aのタイトルは誤りで「女性技術者の働き方 一意識・組織・制度一」というのが最終的に考えたタイトルである。
- 平田委員長より：  
申し訳ない、修正する。正しい方のテーマについてご説明いただきたい。



○岩熊氏（日本技術士会）：(分科会A担当)

前回の運営委員会に要望書の件で出席したときに、今までは研究者を中心に活動してきたが、これからは技術者にもフォーカスを当てた何かをしていかなければならないのではないかという意見があり、また私自身もアンケートが技術者向けとしては回答しづらいものもあったことを述べた。そのような中、研究者だけでなく技術者にも焦点を当てた取り組みをというお話があったので、今回の分科会では、初めて女性技術者にフォーカスを当てたものとして考えた。分科会では、登壇者として4~5名、学協会に関連する技術者に出させていただいて、企業で制度は作ったけれども実際に働いている女性技術者はどう利用しているか、というような観点からも話せればと思っている。また、私どもは長い間、女子学生や若い女性向けにメンターサロンをやってきたので、その中から聞こえてくることをまとめ、若い女性技術者や技術者を目指す女子学生の不安や生の声をお話しできるかと思っている。さらに、実際に会社の中で出産・子育てに直面した人の要望を受けた管理職がどのように意識を変え、会社の中でどのように制度化されようとしてきたか等も、取り上げたいと思っている。

大学の先生方は女性技術者を育てる立場であるので、育てた技術者が社会に出て行ったときの働きやすい環境・働き方、ということについて意見交換し、環境改善のきっかけになればよいと思っている。

研究者の話が出てこなくて申し訳ないのだが、このたび、平田委員長から、これからは技術者として社会で働く女性がいっぱいいるのだから、そういう人達にもフォーカスを当てなければいけないという考えを聞かされ、とても賛同できた。

○塩満氏（日本原子力学会）よりご意見：

女性技術者にフォーカスを当てるとするのは非常によいことだと思う。ただ、パネル討論のテーマの「有期雇用の女性研究者・技術者」というのは、ちょっと違うのではないかと思う。今回の要望書の先頭に書かれているのは「女性リーダー育成」なので気になった。今回の運営委員会が審議の場ということであれば、ご検討いただいたほうがよいと思う。

○永田氏（日本植物学会・日本植物生理学会）：(分科会B担当)

慣例的に分科会Bは次期幹事学会からご提案いただきたいと平田委員長から承り、私と田中氏（日本植物生理学会）およびメインにやったださっている本橋氏（日本植物生理学会、本日欠席）の3人が分科会Bオーガナイザーということで、具体的なテーマ「Dual Career カップルの同居支援案の模索」を立てた。ここしばらく話題になっていることなので細かい説明は不要と思う。女性研究者を取り巻く大きな問題としては、結婚後もキャリアを継続して行くにあたって、それぞれのキャリアを追求していくと、同居という形にならなかつたり、女性がランクを下げてついていくというようなことが問題になっている。最近、家族プログラムや女性研究者支援モデル育成事業等で、いろいろな大学で同居支援策を考えてくださっているのだが、継続的な支援策に繋がらない場面もあるようで、同居支援のための新規制度提案ができるような処を目指して行いたいと思っている。

○平田委員長より：

全体的なテーマとしては、様々なことをまとめたものとなると、どうしても大きなテーマとなると思う。一方パネル討論のテーマは具体的すぎるのでは、というご指摘をいただいている。

分科会Aと分科会Bのテーマについては、それぞれのご担当の方々がお考えになったということと、技術者という今後の新しい流れを作るという形で、ご承認いただければありがたいと思う。

○塩満氏（日本原子力学会）よりご意見：

今回の議事の最後に「要望活動・ワークライフバランス発展編」という資料があり、育児休業のことが書かれている。一般的には有期雇用の方は育児休業を取り

にくいという問題があるが、有期雇用だけで無く安定的な職にあるテニユアの方も、育児休業をとったら研究中断が生じる、競争的資金も支給されない、という重い現実もあり、ここがハードルになってリーダーになりにくい現状もある。これを要望事項としてご説明したということが、平田委員長と一緒に要望書の提出に回ったときの印象にある。「有期雇用の…」に絞る必要があるのか。パネル討論のサブタイトルを削除してしまえばよいのでは。

○平田委員長より返答：

では、パネル討論のテーマのサブタイトルは削除しましょう。全体テーマは、多くを網羅するというので、今回第12期からご提案させていただいたもので良いだろうか。昨年度は「多様性尊重社会を目指して」のような一般的なテーマであり、他にも「男女共同参画と社会」等、ほぼ毎年大きなテーマで来ているので、あまり細かいものにならないように配慮したという経緯もある。

まとめると、シンポジウム全体テーマと分科会A、分科会Bのテーマ、パネル討論のテーマ（ただしサブタイトルは削除したもの）について、本日ご承認いただけるとありがたいのだが、いかがだろうか。

⇒拍手をもって承認された。

○杉山氏（日本数学会）シンポジウム担当チーフより：

ポスターデザインについてもご確認いただきたい。ポスターは日本数学会の宮岡氏と若手研究者の中山氏の尽力により作成されたものである。デザイン等についてご意見をお願いしたい。ご承認いただけるようでしたら拍手をお願いしたい（サブタイトルは修正する）。

⇒拍手をもって承認された。

○平田委員長よりまとめ：

パネル討論のサブテーマは削除して、このデザインで印刷を開始したいと思う。

○伊藤氏（日本物理学会）よりご意見：

「参加無料」とか「一般参加可能」等についてわからなかったので、伺いたい。

○平田委員長より返答：

このシンポジウムは財源がほかにはないので、参加費はいただいている。参加費は、報告事項のときに映写した「シンポジウム参加登録申込フォーム」に記載してある。追ってご案内する予定であった。

○伊藤氏（日本物理学会）よりご意見：

これは、クローズドな会議ということだろうか。ポスターが貼られているときに、見た人が行っていいのかどうか、私は見てわからなかったもので、伺った。

○平田委員長より返答：

昨年度の11期では学生は無料、各学会から事前に申し込みがあった場合には、お一人2,000円を徴収してご参加いただいていた。学協会と無関係な方もご参加は可能であり、当日の参加もできるが、学生以外は参加費を2,000円いただいている。

○井関氏（日本分子生物学会）よりご意見：

ここに有料か無料かは書かなくてもよいのだが、ここに、ホームページのアドレスを入れて、そこに飛ぶと、一般の方も歓迎だけれども、これだけの料金をいただきますよ、としたほうがよい、ということではないか。

○伊藤氏（日本物理学会）よりご意見：

今の状態では参加してよいのかどうかもわからないので、それがよいと思う。

○小林氏（日本熱帯医学会）よりご意見：

ポスターを貼るということは、来ていただきたいのであるから、そこに「事前登録が必要」とか「参加費は〇〇円」とか「学生は無料」とか書いてあることが重要だと思う。ポスターが貼られているのに、そこにホームページにアクセス等と書かれていると、それだけで行きたいという気持ちが削がれると思うので、書いておいた方がわかりやすい。

○平田委員長より返答：

では、ポスターに「学生は無料」「参加は事前登録が必要（有料）」のような情報は書くようにしましょう。

○塩満氏（日本原子力学会）よりご意見：

もう1点、学協会連絡会の方を対象としているのか、一般の方を対象としているのかということも、方針として決めておいた方がよいのかな、と言う気もするが、いかがだろうか。例えば、駒場の学生の方がその場でふらっと入ってしまうというのがよいのか、あるいは、学協会連絡会の方のみとするのか、会場の大きさもわからないので確認させていただいた。

○平田委員長より返答：

ポスター情報については、第12期で検討させていただき、なるべく皆さんが入りやすい方がよいということがスタンスとしてお認めいただけるようであれば、そのようなポスターにしたいと思う。ただ、今までは確か連絡会のシンポジウムは、報告という意味が大きく、どちらかというところクローズドであったと思う。第12期事務局で考えさせていただき、リエゾンでお諮りする。「学生は無料」等の情報は書くようにしたいがいかがだろうか。

⇒第12期事務局で検討し、リエゾンにて諮るということで、拍手をもって承認された。

## 7. 任期付職・ポスドクおよび広い意味での研究人材育成に関する、文部科学省科学技術・学術政策研究所へのアンケートデータ提供について

平田委員長より、以下の説明があった。

文部科学省科学技術・学術政策研究所（NISTEP）は、文部科学省直轄の国立研究機関である。このNISTEPから、第3回大規模アンケートの生データを提供いただけないか、という依頼があった。（参考：<http://www.nistep.go.jp/>）

大規模アンケートのデータについては「それぞれの学会、協会での男女共同参画に資する活動に役立てるため」という目的で申請し、ご自身の学協会分の回答者の生データを第11期から借り受けて活用している学協会も多いと思う。

NISTEPでは、ポストドクター・任期職の問題や、広く研究人材育成に関して問題提起をするため、女性研究者・技術者の育成という視点で、このデータを使いたいとのことである。このようなところにアンケートデータを使っただけだと、連絡会で行ったアンケートの意味が生まれて、よいことではあると思うのだが、一方では、生のデータというのは、様々な危険をはらむ。NISTEPでは、個人が特定されるような使い方はしないという誓約書を提示してはいる（「個票データ利用申請書」）。

この場で仮に全学協会からの承認が得られれば、連絡会として11期で保管している全学協会の生データを、NISTEPへ提供できるであろうが、全学協会からの承認が得られない場合は、大きな学協会から個別にご自身の学協会分の生データをご提供いただく、という形もあるのかもしれない。ちなみに日本数学会では、理事会で承認を得ており、11期から借り受けた数学会分の回答者の生データをNISTEPに提供する用意は一応ある。各学協会にお持ち帰りの上、ご議論いただければと思うが、この場でだいたいのご意見を伺っておきたい。

○澤田氏（日本動物学会）よりご意見：  
アンケートの生データについてだが、アンケート調査は、連絡会の参加加盟学会（つまり分担金を払っている学協会）の活動として行っており、その調査結果は当然、加盟学協会の男女参画活動のためと把握することができる。もちろん、個人情報の扱いには注意することになっているが、正規加盟学協会は生データを借り受けられる。しかし、他の機関へ提供するのであれば、連絡会としてのデータ提供はできないと思う。全学協会が賛同した場合を除いて、協力することを申し出た学協会のみが、個別に学協会ごとに提供する形になると思う。

○森氏（日本化学会）よりご質問：  
生物物理学会が第2回大規模アンケート調査のときに、データの著作権が連絡会に無く、名目上、名古屋大学にあったときにこの問題があったと思う。このデータを他の機関に使わせない、というのはどこからきたのか。日本化学会としては、我々が分析するのは難しいので、このような分析のプロが研究してくれるのだしたら、良いのではないか、という話をしているのだが。

○澤田氏（日本動物学会）よりご回答：  
例えば、動物学会はシンポジウムの際に分科会を行ったが、そのWGで使用するためのデータも、承認のあった学会のみであって、全体のデータを再解析するのは難しかったという経緯がある。ただ、これは過去のことなので、今後またルールを変えるか、新しいルールを作るということであれば、話はまた別である。クロス集計等もしたかったができなかったという気持ちもあった。各学協会での承認があればよいということになるのであろうと思う。  
著作権に関しては、第3回アンケート調査については外部に著作権は無く、連絡会が生データを管理することになっている。

○森氏（日本化学会）よりご質問：  
外部の団体に使わせると何か不測の事態が起こるのではないか、というような議論はあったらどうか。

○澤田氏（日本動物学会）よりご回答：  
そのような議論は無かった。そもそも、使ってもらっていなかったのだから。

○齋藤氏（日本液晶学会）よりご意見：  
申請の文書が資料として無いためわからないが、文科省あるいは研究所からの依頼なのか、あるいは研究所に所属している研究者からの依頼なのか、それがわからないと判断できない。そもそも全体に資料の配布が不十分で、判断しきれない。

~~~~~  
○ここで、映写担当者により、「個票データ利用申請書」の映写準備が行われた。

~~~~~  
○塩満氏（日本原子力学会）よりご意見：  
先ほどの森氏のお話についてだが、第2回大規模アンケート調査の著作権は、結局名古屋大学ではなくて、連絡会であることをご理解いただければ、と思う。実施した主体が連絡会なので、著作権が連絡会ということになったはずである。連絡会には法人格がなかったため、そのあたりが問題になったのだが、報告書の名前は、連絡会になった。

○澤田氏（日本動物学会）よりご意見：  
それは違うと思う。連絡会の名前は出したのだが、報告書を見るとすべて文科省へ移動するという事になったと思う。

【註】平成19年度アンケート調査報告書の著作権は文部科学省に帰属と記載。

（参照：[http://www.djrenrakukai.org/2007enquete/h19enquete\\_report\\_v2.pdf](http://www.djrenrakukai.org/2007enquete/h19enquete_report_v2.pdf)）

○平田委員長より：

それでは、資料「個票データ利用申請書」の準備（映写）ができたのでご覧いただきたい。

~~~~~  
○映写担当者により、「個票データ利用申請書」の映写が行われ、申請書の内容が平田委員長より読み上げられた。

「利用にあたっては調査対象の秘密保護を図り、ここの調査対象が識別できる形式での発表は一切いたしません」とあり、申請者は文部科学省科学技術・学術政策研究所（NISTEP）上席研究官の小林淑恵先生、個人での申請。住所は文科省科学技術・学術政策研究所。データ借用申請期間は2年間。

利用の目的は次のとおり。「文部科学省ではイノベーション人材育成を目指し、博士号取得者の多様なキャリアパスの拡大や女性研究者の増加と活躍を目的とした施策を実施しているが、現在の所その成果は十分とは言えない。特に女性の研究者はキャリア構築が遅れがちであると言われているが、その実態と要因は十分検証されておらず、有益な施策につながっていないのが現状である。そこで男女共同参画学協会連絡会により学会横断的に集められた大規模なデータの個票分析を行うことで、特に家族形成と研究キャリアの関係や、女性研究者に関する施策の効果（評価）を明らかにし、新たな政策提言につながる知見を得ることを試みる。」

~~~~~  
○平田委員長より：

連絡会のアンケート調査なので、本連絡会宛に申請されたのは誤りではないのだが、現実的には連絡会自体には、外部の機関にアンケートのデータを提供する権限は無いようだ（【註】第3回大規模アンケートガイドライン参照）。データを外部に提供する場合は、各学協会が連絡会幹事学会へ利用申請してデータを借り受けていただき、そのデータを各学協会が責任を持って外部へ提供・協力する、ということは可能かもしれない。日本数学会では提供が承認されているが、様々なお考えの学協会があると思うので、今ここで結論は出せないと思う。しばらくご議論いただくということでいかがだろうか。リエゾンでも配信する。

○藤ノ木氏（日本細胞生物学会）よりご意見：

道上氏が詳しいのかもしれないが、1点目として、各学協会から集めた生データの利用についてのルールをどのようにして取り決めたのか、ということを確認しないと、話の土俵に乗せられないと思う。

2点目として申請書だが、加盟していない団体からの利用申請については、考えていなかったと思うので、この申請書を使って、加盟していないところから申請が出るということがそもそも、是なのか非なのか、ということを考えないといけないと思う。もし、加盟していないところからの申請を認めるのであれば、それなりの申請書のフォーマットをまた考えなければいけないのではないかな。

○澤田氏（日本動物学会）よりご意見：

今、手元に資料が無いのであとで確認しなければならないが、加盟学協会以外の利用というのは想定していなかったと思う。現在のフォーマットは、あくまで連絡会内部でのフォーマットである。もし、加盟学協会以外の利用ということであれば、また別の議論であり、フォーマットも作らないといけないと思う。

ただ、そうすると、連絡会に所属していない、どこかの研究所に所属する個人の研究者の方が、ご自分の研究成果（解析）として、データをまとめて解析し公表することが可能だということになってしまうので、大きな問題かもしれない。今回の件を1つ認めることで、このようなことも想定されるので、どこまで生データを配布してよいかという議論になるのではないかなと思う。少し慎重に扱った方が

よろしいのではないか。いずれにしても、配布ルールについては、後ほど資料を確認してみる。

○平田委員長より：

1つの腹案として、小林先生にアンケート解析結果報告書のみをご利用いただけないか、ご提案したいと思っていた。解析結果のグラフにも数字等が書いてあるので、調査対象の「研究キャリアと家族形成の関係」や「女性研究者への施策の効果」等は、解析結果のグラフからもわかるのではないだろうか。

さて、ここで各学協会にお持ち帰りいただき、生データの外部への提供について、ご審議いただくことも考えられるが、まず申請者の小林先生と相談してみしてから、連絡会としての議論が必要であれば、リエゾンMLで流したいと思う。そのような進め方でお認めいただけるか。

○齋藤氏（日本液晶学会）よりご意見：

念のため、確認したい。各学会に対して小林先生が申し込みをして個別にもらうのであれば、今の方法で利用できるということだろうか。

今回はこちらの準備がないので、アンケート解析結果をご利用いただくように提案するということがよいが、今後どうするか、ということについては別の問題として議論するということが整理すればよいのではないか。

○平田委員長より：

他の団体からアンケートデータを利用したいという申し入れがあったのは、今回が全く初めてのケースだった。小林先生に対してはいったん回答を保留する旨をお知らせする。そして今後の事も考えて、外部の団体等が申請してきたときにはどうするか考えるようにしたい。

○岡村氏（土木学会）よりご意見：

アンケートデータ利用の最初の条件が、先ほどお話のあったように、加盟学協会以外での利用を想定していなかったのであれば、基本的に加盟学協会以外からの利用申請は禁止だと思う。従って第3回アンケート調査に関しては、基本的に提供は「無し」とし、必要だったらアンケートをご自分で行ってください、あるいはアンケート解析結果の報告書を見てください、ということによりと思う。それを受けて、個々の学協会に、各学協会が持っているデータを提供してください、という依頼が来て、そこで議論して、それでは自分達は提供します、という返答をするのであるなら、それはOKだと思う。ただ、ここで生データを出してください、というのは際限が無い。想定していなかったというのであれば、加盟学協会以外への提供は「無し」だと思う。

○フラナガン氏（日本物理学会）よりご意見：

逆に、小林先生から連絡会に、このようにデータを分析してくれないか、という要求が来れば、連絡会ではアンケート解析委員会を立上げて実施することは可能だと思う。だが、オブザーバー学協会については生データを持っていない。だから第三者に渡すのはたぶん無理だと思う。

○坂田氏（日本生態学会）よりご意見：

日本生態学会でアンケートデータの利用申請をして解析を担当したのだが、利用目的をきちんと書いて、生態学会の分を解析するためだけであることを明記した上で利用させていただいた。その申請書が通っているからといって、別の団体や研究者にデータを渡す許諾まではいただいていないと考える。生態学会の理事会を通ったとしても、生態学会分のデータをお渡しすることはできないのではないだろうか。改めて申請書を学協会連絡会に出さなければいけないのではないだろうか。

○平田委員長より：

このような申請（外部からの利用申請）が出ることは想定されていなかったのだが、将来もあり得るのであれば、次回の大規模アンケートに向けた議論になるの

かもしれない。第12期事務局でも少し整理をしたいので、今回は結論を出さずに、継続審議という形でいかがだろうか。

⇒継続審議とさせていただいた。

#### 8. 一般社団法人 ジャパン・ダイバーシティ への加入について (資料配布)

平田委員長から以下のような説明があった。

どのような団体であるかは、配布した資料をご覧ください。

(参照：<http://diversity.or.jp/wp/>)

文科省の板東久美子審議官から、この団体への入会についてお誘いを受けた。この団体は男女参画だけではなくダイバーシティに関するネットワークのプラットフォームのようである。会長は内永氏で、会員は技術系の企業が多いと思われる。この団体へ入会する場合は、団体会員としてであると年会費が毎年1口10万円となるが、連絡会ではこの金額は支払うことはできないと思う。従ってもし入会するのであれば、賛助団体がよいのではないだろうか。いろいろな場で意見交換をするのは悪くないかもしれない。賛助団体と通常の団体会員との違いは現状の資料ではよくわからないが、賛助団体としてオブザーブしておくことも可能かもしれない。文科省からの紹介なので、怪しい団体ではないと思うが、いかがだろうか。審議事項は各学協会へ持ち帰ることもできるが、この場での審議でよいかもしれない。入会しないという選択もあろうし、連絡会の女性技術者のための活動に役立つ可能性もあるので、入会してみて意味がなければ退会するというのも可能かもしれない。ご意見を伺いたい。

○齋藤氏（日本液晶学会）よりご意見：

賛助金が1万円を切ることは無いと思う。個人会員が1万円なので、賛助団体の賛助金は1万円未満では許してもらえないのでは無いか。10万円では支払えないというのであれば、賛助金の金額について確認してからではだめだろうか。

○平田委員長より返答：

確認する。

○為近氏（応用物理学会）よりご意見：

賛助金が高いかどうかの前に、この団体に入会する目的は何なのか。メリットはあるのか。連絡会は、これだけ大きな組織になっているのに、それがなぜこのような団体の傘下に入らなければならないのか理解できない。賛助団体というのは、そういう性質のものではないと思うが、金額の問題ではないような気がしている。何のために入るのか、入ることによってどういう利益をもたらされるのか検討した上で、議決した方がよいのではないだろうか。

○平田委員長より返答：

受けた説明は、板東審議官からいただいたこの資料にある「全国の団体はなるべくご入会ください」ということくらいで、お誘いいただいたときの話でも今のご質問についてはわからなかった。課題共有・情報共有が目的なのだと思う。

○塩満氏（日本原子力学会）よりご意見：

何が役に立つのかとか、もう少し情報を収集したほうがよいのではないかと、という印象を受けている。また本件は文科省から強く入会してくれと言われたわけではなく、情報提供としていただいたものなので、誤解の無いようお願いしたい。

○平田委員長より返答：

では少し調べさせていただくことにしたい。10万円という会費用途等も不明であるので、ご議論いただけてよかったと思う。

⇒継続審議とさせていただいた。

#### IV その他

1. オブザーバー学協会への正規加盟のお願い  
オブザーバー学協会も、正規加盟になっていただきご活躍いただきたいとのこと、平田委員長より伝えられた。
  
2. 10月4日の分科会A、分科会Bのプログラム概要ご提出について  
平田委員長より、シンポジウムの分科会A、分科会Bをお願いしている学協会には、次回の運営委員会までに簡単な概要の提出をお願いしたい旨が伝えられた。
  
3. 10月4日のシンポジウムのポスターセッションへのご参加のお願い  
アンケートデータを申請した学協会がそれを用いて解析した結果等については、ポスターセッションにご発表いただければと考えている。
  
4. 次回運営委員会の開催について  
次回の運営委員会は8月4日を予定している。本日と同じ場所で行う予定である。  
~~~~~  
2014年8月4日（月曜日）15時～17時  
場 所：日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館121会議室  
~~~~~
  
5. 女性研究者 審査員候補者リストについて  
平田委員長より、以下のような説明があった。  
要望書を政府等に持って回っていたところ、研究費等に関する女性の審査員候補者が見えないということを言われた。リストは文科省等にもあるようだが、固定化していて、いつも同じような人が審査員として出てくるようにも思える。若手やより多くの女性研究者がリストとして挙がってくると、イノベーションも進むのかもしれない、というようなことを言われた。これは連絡会で審議するということではなく、各学協会で、こういうことをやっていただけたらよいのではないかと感じたので、ここにお願として挙げさせていただいた。例えば、ご自分の学協会でご自身の女性研究者のリストを作っていて、発信するというようなことをしたら良いのではないだろうか。

#### V 研究者の育児休業に関する課題について（資料配布）

「2014 要望活動・ワークライフバランス発展編～育児休業と同居支援～」

平田委員長から以下のような説明があった。

要望書を持って回っていたときに、育児休業と同居支援について、様々の課題が出てきたので、これに関して大坪氏（第7期・第8期提言委員会委員長・日本遺伝学会）に上記のタイトルの講演をご準備いただいた。運営委員会の終了予定17時を回ったので、いったんここで運営委員会を閉じ、このタイトルについて勉強会という形で講演を聴いていただきたい。

【註】上記勉強会講演内容については連絡会シンポジウムの資料集への掲載を予定。

以上